

# ZENFUREN

全国国立大学附属学校連盟・全国国立大学附属学校PTA連合会

## 附属だより 第114号

～子どもたちとこの国の未来のために～

全附連ホームページ  
<http://www.zenfuren.org/>

全附P連最新情報  
<https://www.facebook.com/全国国立大学附属学校PTA連合会-535185576863562/>

第114号  
**LINEUP**

全附P連  
**絵画コンクール2019**  
「はじまりのとき」  
～ぼくのわたしの未来への希望～



6～8面

**「学校における働き方改革」**

東京海上日動火災保険顧問  
(元厚生労働省厚生労働審議官)

岡崎 淳一氏

9面

寄稿

**「親子四代附属学園の卒業」**

香川県 坂出市長 綾 宏氏

9面

OB訪問プラス

第12回  
**附属OB訪問**  
吉村 作治氏  
神余会長 対談

10面



**「遊び場」でつながる未来**  
茨城大学教育学部附属特別支援学校  
PTA実践集「夢・希望への歩み」  
熊本大学教育学部附属特別支援学校  
教育実習生と保護者との懇談会  
大阪教育大学附属平野中学校

11面

附属トピックス

# 全附P連PTA研修会

## 第10回全国大会を開催

### ご挨拶

「言葉を与え発信すること」に向けて

す。国立大学附属学校園の歴史は、まさに「ポスト近代型能力」の獲得に向けた、

現在、学校教育に求められる「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには多様性、意欲、創造性、個性、能動性、ネットワーキング形成力、交渉力など、教育社会学者の本田由紀氏がいう「ポスト近代型能力」が不可欠です。しかしそれらは「努力やノウハウとはなじまない性格」のもので「どうすればそれを手に入れられるのか、誰にもはつきりとはわかっていない」ものともなっています（『多元化する「能力」と日本社会』N-T出版、二〇〇五）。



全国国立大学  
附属学校連盟  
理事長 甲斐 雄一郎  
(筑波大学附属小学校校長)

「日常的・持続的な環境条件」の構想・構築・修正に関わる努力によって形成されているといえるでしょう。「誰にもはつきりとはわかっていない」ものではありながら、すでに実現しているはずのこと、それらに言葉を与え発信することも現在の私たちに求められていることなのだと思います。

PTA研究会開催前、全国国立大学附属学校PTA連合会（全附P連）の法人化に向けた臨時総会（256校園のうち、出席94校園、委任状95校園）が開催され、各議案が採択されました。



### 法人化でより公共的な全附P連へ

議論に耐えうる活動やエビデンスを報告してほしいとのご意見や、全国の附属が足並みをそろえることが重要とのご意見がありました。私たちは、連盟とともに進めている「改革」と「周知」をさらに進めていく必要があります。



全国国立大学附属学校  
PTA連合会  
会長 神余 智夫  
(香川大学教育学部附属坂出小学校PTA)

さて、全国大会で開催された臨時総会で、来年4月からの一般社団法人化が承認されました。これまで全附P連は任意団体なので個人の責任で資産が管理されている状態でしたが、一般社団法人になることで法人としての資産管理や、社会の中でより公益性の高い存在として認知されるようになります。私たち全附P連も必要な改革を実践し、さらに公共的な活動を推進するとともに、単位PTAや附属学校を支える活動も推進していきます。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

議事後に来賓挨拶として登壇した全国国立大学附属学校連盟の吉田隆副理事長は、全附P連の法人化について「連盟を代表して、全附P連の皆様にお礼申し上げたい。全附P連の法人化は、大学、附属大学にとって非常に心強いものである。また全附P連のさらなる活動充実、教育全体にも好影響を与えるだろう。また臨時総会議事審議中における活発な意見交換は今後の全附P連運営にとって非常に大切なことだ」と述べられました。



開催  
スローガン

子どもたちとこの国の未来のために ～今、附属が目指す「共生」～

萩生田光一文部科学大臣はビデオメッセージの中で、「国立大学附属学校は実験的・先導的な教育への取り組み、教育実習、大学学部における研究への協力など、地域の教育を牽引するモデル校としての役割が求められています」と附属学校の意義を強調されました。また、「保護者の皆様が、いじめ防止、防災教育、障がい者理解、オリンピック、パラリンピック教育などに積極的に参加、協力していただいていることに、深く敬意を表します」と全附P連のこれまでの活動を評価していただきました。萩生田大臣は「附属学校では文科省が推進しているICTの活用、働き方改革などの課題に率先して取り組んでいただいているところですが、その成果を今後、さらに広く発信されることを期待しています。子どもたちの健やかな育ちを支えるため、P・T・Aの皆様と手を携え、我が国の教育の充実に取り組んでまいります」と文科省と全附P連との連携にも言及されました。

メッセージ

萩生田 光一 文部科学大臣  
～ビデオメッセージ～



講演

附属学校を取り巻く現状について

文部科学省  
総合教育政策局  
教育人材政策課  
教員養成企画室長  
高田 行紀氏



開会式では高田行紀・文部科学省総合教育政策局教育人材政策課教員養成企画室長が「附属学校を取り巻く現状について」をテーマに講演をされました。高田室長は新しい学習指導要領で主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）とカリキュラムマネジメントが、小学校で2020年、中学校で2021年、高校で2022年から実施されることを紹介し、「ほとんどの附属学校では早くから取り組んでいらっしやる」と評価されました。また、「附属学校の中には活動の周知という点で損をしているところもある」と指摘し、附属学校の役割である先導的な取り組みの成果を広く社会に伝えていく一層の努力を求められました。

全附P連P・T・A研修会  
第10回 全国大会

10月4日(金)  
～5日(土)～  
ハイアットリージェンシー東京

基調講演



パラリンピック競泳金メダリスト  
河合 純一氏

パラリンピック6大会に出場し、金メダル5つを含む全21個のメダルを獲得した河合純一氏に講演をいただきました。

河合氏は目が見えないため、目が見える人とは違った視点を考えるのだそうです。この違う視点は、社会にとって必要な視点です。例えば、車いすで登壇できないことは、足が問題なのか、車いすが問題なのか、どちらなのでしょう。前者は車いすに乗っている人に、後者は社会に視点がありません。今までは前者に視点ががちでしたが、最近は、バリアフリーなどの言葉が日常で使われており、後者に移っています。社会で改善していく、人の心が変われば社会が変わる流れの中にいることを強く感じました。

また、「夢」について話が続きました。河合氏は、給食が好きなので学校の先生になろうと思い、夢を叶えたそうです。もし、子どもが夢を話したとき、どんな理由でも、大きな心でその夢を認めてください、と強く、優しく話されました。夢に向かって行動し続けることは、とても大切なことだからです。自身も生徒たちに夢をかなえる方法を自分自身で見せたい、そんな思いでシドニー出場のを叶えたそうです。最後に今の夢である2020東京大会について、スポーツの醍醐味はライブ感なので、多くの方に会場でスポーツの魅力を感じてくださいと熱く語られました。私も、ぜひ会場で、臨場感を味わいたい気持ちになりました。

講演

働き方改革について

東京海上日動火災保険顧問  
(元厚生労働省厚生労働審議官)  
岡崎 淳一氏

働き方改革について、中でも注目を浴びている長時間労働に関して、国立大学の附属学校は働き方改革でも公立学校の先導役になる必要があり、それを進めていくには皆様P・T・Aの協力とご理解をいただきたいと述べられ、改革の必要性を述べられました。詳しくは今号9ページにご寄稿をいただきましたので、そちらをご覧ください。



大会スケジュール

| 第1日目                          |  |       |  |       | 10月4日(金) |       |  |       |  | 第2日目      |  |                |  |       | 10月5日(土) |                         |  |       |  |       |  |       |  |       |                               |      |  |                                |  |                                                  |  |            |  |       |  |       |  |       |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|-------------------------------|--|-------|--|-------|----------|-------|--|-------|--|-----------|--|----------------|--|-------|----------|-------------------------|--|-------|--|-------|--|-------|--|-------|-------------------------------|------|--|--------------------------------|--|--------------------------------------------------|--|------------|--|-------|--|-------|--|-------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 9:30                          |  | 10:30 |  | 11:30 |          | 12:00 |  | 12:00 |  | 開会(13:00) |  | 13:55          |  | 14:20 |          | 15:50                   |  | 16:20 |  | 18:00 |  | 18:30 |  | 20:30 |                               | 8:30 |  | 9:00                           |  | 10:30                                            |  | 10:50      |  | 12:45 |  | 13:00 |  | 14:30 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 受付                            |  | 臨時総会  |  | 昼食    |          | 受付    |  | 開会式典  |  | 休憩        |  | 附属セミナー<br>基調講演 |  | 休憩    |          | 特別分科会<br>テーマ別分科会<br>1~5 |  | 休憩    |  | 情報交換会 |  | 受付    |  | 本講演1  |                               | 休憩   |  | クロージングセミナー<br>本講演2<br>教育シンポジウム |  | オプションプログラム<br>幼稚園、<br>特別支援<br>希望者対象<br>ランチミーティング |  | 13:30 展示終了 |  |       |  |       |  |       |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                               |  |       |  |       |          |       |  |       |  |           |  |                |  |       |          |                         |  |       |  |       |  |       |  |       |                               |      |  |                                |  |                                                  |  |            |  |       |  |       |  |       |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 〈パネル展示〉絵画・作文コンクール入賞作品・特支記念品展示 |  |       |  |       |          |       |  |       |  |           |  |                |  |       |          |                         |  |       |  |       |  |       |  |       | 〈パネル展示〉絵画・作文コンクール入賞作品・特支記念品展示 |      |  |                                |  |                                                  |  |            |  |       |  |       |  |       |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

分科会5 教育後援会部会

運営費交付金が毎年削減されていく中、より一層教育後援会の重要性が増してきております。2つの成功事例を基にグループディスカッションを行いました。役員の構成や大学との連携、寄付金控除について等、内容は多岐にわたりました。後援会組織がしっかりと機能し実績を上げているところは少なく、あらためて教育後援会の課題が浮き彫りとなりました。理想の後援会組織にするには、まずは大学との信頼関係を築くこと。そして、同窓会や企業など多方面との連携を図ることが重要であると再認識いたしました。

分科会4

国際的なフレンチャシェフとして活躍される中、チョコレート工房やフレンチレストランを福祉事業所として立ち上げ、就労支援事業所を展開している株式会社クロフティ代表取締役・黒岩功氏による講演が行われ、中でもプロフェッショナルと障がいを持つ若者とのコラボレーション、プロの技術・プロのサポートにより福祉の世界を変えようという黒岩シェフの思いは参加者全員の心を打ち、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官・中村大介氏の助言もさらにその取り組みを価値づけるものとなりました。

分科会3

附属幼稚園の目指す姿、あるべき姿を皆で考えよう  
社会環境が変化する中、女性の社会参加と共働き世帯の増加により保育所、子ども園の需要が増えている現状を、幼児教育全体をどのように考えるのか。幼児教育無償化により全国の幼稚園で起こっている現状と、附属幼稚園に及んでいる影響の講演を行いました。高知大学附属幼稚園から図書室整備に際して幼稚園とP・T・Aが取り組んだ活動報告、岡山大学附属幼稚園は時代に即したP・T・A活動の見直しの発表を行い、学び多い分科会となりました。

分科会2

「ネットにのめり込む予防と情報モラル・リテラシー」  
講師 青山郁子氏  
公立大学法人都留文科大文学部国際教育学科教授  
ネットにおける「いじめ」の歴史から始まり、現場での実際の対応などについてもお話がありました。いじめの防止には、個別の対応だけでなく無くいじめを起こしにくくする周囲の環境作りなども重要だということ、そういう点ではP・T・Aの役割も大事だと思われました。また、特にネット世界の中では多様な意見が表出しやすく、そういった多様性を体感し尊重し合うワークショップなども行われました。  
また無料で相談できる場として「安心ネットづくり促進協議会」の紹介もありました。

分科会1

分科会1では、特定非営利活動法人プラス・アーツ代表永田宏和先生、大阪教育大学附属平野五校園連合会和田朋久会長に講演いただき、「防災でつなぐ地域連携・大学連携」についてお話いただきました。  
永田先生からは、従来の手法にとられないアートの発想・想像力による地域活性化の一例として、おもちゃのかえっこバザールと防災訓練を合体させた「イザ！カエルキャラバン」を紹介いただきました。そして、和田会長からは、「イザ！カエルキャラバン」の実施例として、平野五校園での「ひらのBOSSAIキャラバン」を紹介いただきました。  
参加者によるディスカッションでは、各附属校園の取り組みについて、活発な議論が行われました。



## 特別分科会 国公立PTA 合同公開 シンポジウム 開催

特別分科会として、「国公立PTA合同公開シンポジウム」を開催いたしました。「学校へのスマートフォンの持ち込みについて」をテーマとし、板東氏より「スマートフォン持ち込みのメリットとリスク」に関しての基調講演の後、四辻伸吾・大阪教育大学附属平野小学校副校長が、同校で十数年前から取り組んできた学校への持ち込みについて紹介しました。

シンポジウムは呉本啓郎・全附P連直前会長がコーディネーターを務め、板東氏、四辻氏、笛木啓介・全日本中学校長会生徒指導部長、新山裕之・全国国公立幼稚園・こども園長会会長がシンポジストとして議論を深めました。

笛木氏は全国の公立中学783校に対して7月に行ったアンケートで、持ち込み禁止が44%、原則禁止が44%、条件付き容認が12%で全く自由が1校だけだった結果を紹介し、「生活指導の主戦場はSNS、スマホの紛失、盗難、盗撮、授業妨害で対応する教員は疲労困憊しています」と現場の状況を説明し、持ち込みが時期尚早であると発

言。新山氏は「幼稚園ではメリットはありません。子どもたちに直接体験をさせることが大切で、スマホを家で使うことも制限した方がよいのではないのでしょうか」と持ち込みには否定的な発言をされました。

一方、四辻氏は昨年の大阪府北部地震の際、地下鉄で登校途中の低学年の児童がパニックになった時に、安全携帯で親の声を聞いてホッとしたという事例を紹介し、「不正使用については厳しくしてきたが、改善の声があるのかな」と災害時、緊急時の使用についての対応策に言及しました。板東氏は「スマホをどう有効に使うかが重要で、ネットの世界の危ない点を子どもたちにどう知らせていくか、守っていけるかを親もしっかり考えていかなければなりません」とネット対応の必要性を強調しました。

最後に呉本氏が「附属学校としては子どもに持ち込みのルールを守らせる教育が必要」と附属学校が率先してスマホの持ち込みについても考えていくことを指摘し、シンポジウムを終えました。



日本司法  
支援センター  
理事長  
板東 久美子氏

### 学校へのスマホの持ち込みについて

2019年2月、大阪府教育委員会は、登下校時の安全・安心のために、携帯電話の小学校への持ち込みを可能とする方針を示した。前年の大阪北部地震が登校の時間帯に起き、子どもの安全確認ができない場合があったことがその背景にある。

一方、携帯電話でも特にスマートフォンについては、電話機能だけでなく、インターネットやSNS、デジタル・コンテンツが利用できるため、子どもに持たせること自体に様々なリスクもある。例えば、1日数時間もスマホを利用する青少年が増えているなど、スマホ依存の問題がある。SNS投稿等を端緒とする個人情報漏えい、悪用、

### シンポジスト感想

ど、通学時の安全・安心の確保は公立より切実な問題がある。携帯電話でも特にスマートフォンについては、電話機能だけでなく、インターネットやSNS、デジタル・コンテンツが利用できるため、子どもに持たせること自体に様々なリスクもある。例えば、1日数時間もスマホを利用する青少年が増えているなど、スマホ依存の問題がある。SNS投稿等を端緒とする個人情報漏えい、悪用、

このようにスマホ持ち込みには様々な得失が考えられるため、子どもの発達段階に応じたリスクや対応策など、様々な角度から、その是非やルールを検討していく必要がある。今回の全附P連研修会全国大会でもこの問題についてのシンポジ



大阪教育大学附属  
平野小学校  
副校長  
四辻 伸吾氏

### 学校におけるスマホの活用について

今の世の中において、スマホは日常生活に欠かせないツールとなっています。LINEなどで人と簡単にコミュニケーションをとることができたり、わからないことがあったらすぐにその場で調べたりと、昔前では考えられなかったようなことができるようになりました。一方、ス

マホの使用が当たり前前の状況下で、様々なトラブルが増えてきています。ネットいじめ、個人情報の漏洩、スマホでの支払いによる金銭トラブルなど数えればきりがありません。

このままでは学校現場では、スマホは当然「持つてきてはいけないもの」として扱われてきました。しかし、スマホの利便性は他のものに変えることができないものであり、

児童や生徒がスマホを所持することについて、ルールを定めるだけでなく、ルールを設けることが推奨されます。

本校では、十数年前より緊急連絡ツールとして、学校でのスマホの所持を認めています。その使用は「登下校時の緊急時のみ」という限定的なものですが、しかし本校が行ったスマホに関するアンケートからは、多くの保護者の方々は、スマホの利便性をふまえて

学校での使用方法を拡大するよりも、「登下校時の緊急時のみ」という限定的な使用が好ましいと考えられておられることが推察されます。

今後社会の流れが変わり、スマホに対する考え方も変化することがあります。このような中で大事なことは、スマホの持ち込み、使用等の「是か非か」という議論ではなく、どのような活用することが子どもたちの健全な成長につながるかにについて具体的な検討が必要だと

思います。

学校での使用方法を拡大するよりも、「登下校時の緊急時のみ」という限定的な使用が好ましいと考えられておられることが推察されます。



全日本中学  
生徒指導部長  
笛木 啓介氏

### 学校へのスマートフォンの持ち込みについて

LINEトラブル、過度の依存、ネットいじめ等、スマホをめぐる問題が、今の公立中学校の生徒指導における主戦場となっている。したがって、現在各地で議論されている、スマホ等の学校への持ち込みを許可するという方向性は、この生徒指導に大きな影響を与える問題です。大

阪府のガイドラインでは、「保護者の責任」が強調されていますが、はたしてどれほどの保護者の方々が、その責任を自覚しているのでしょうか。その反面、教員は日常的に紛失や盗難等への対応に苦慮し、盗撮やSNSへの投稿に注意を払い、授業妨害やテスト中のメール交換等への対応に疲労困憊です。「持ち込み解禁はまだまだ早い」。これがほんどの公立中学校の正直な考えでしょう。



全国公立幼稚園・こども園長会  
会長  
新山 裕之氏

### スマートフォンとの付き合い方について

電車の中で、赤ちゃんにスマートフォンで動画を見せる親を目にすることがある。スマートフォンに子守りさせることは、選択肢の一つとしてあってもいい。しかし、親自身も、ずっとスマートフォンを覗き込んで、我が子の様子すら見ていない状況には危機感を覚える。「疲れたね、

でももう少しだから我慢しようね」とあやしたり、絵本や手遊びで気を紛らわしたりする

光景を見掛けなくなつた。我が子の表情を見て、スキップを取りながらの関わりが、これからの社会で求められるコミュニケーション力の原点である。大人自身がスマートフォンとの節度ある付き合い方ができると、併せて電車の中の親子を温かく見守る周囲の目も求められる。



全国公立幼稚園・こども園  
PTA連絡協議会  
会長  
猪木 直樹氏

今回のシンポジウムにおいて、改めてスマートフォン等IoT機器と子どもたちの関わりについて考えさせられました。様々な



公益社団法人  
日本PTA全国協議会  
副会長  
曾我部 駿介氏

環境、地域性において、多様化していることは確かです。どんな時代背景であろうと保護者として子どもの幸せを願うことは、不変であると信じています。Societyの社会が必ず訪れるといわれています。その中において、現代社会に合っ



公益社団法人  
日本教育会  
専任理事  
常盤 隆氏

さて、「学校へのスマートフォン持ち込みについて」というテーマでたくさんのご意見をいただきました。賛否両論ありましたが危機管理の手段として利用するのは必要な事ではないかと感じました。しかし、本質的なことから考えますと家庭教育、学校教育、地域教育が共有できてこそ子どもたちの安全安全な教育環境が



一般社団法人  
全国図書教材協議会  
理事・事務局長  
渡部 竜士氏

子どもたちを取り巻く環境がこれまで以上に大きく変わり始めているが、いつの時代も学校教育に関わる私たちが一番に心掛けるべきは、子どもたちに寄り添う、ということかと思



日本教育新聞社  
編集局長  
矢吹 正徳氏

今回の試みは幼・小・中の学校関係者と、幼・小・中に国立附属学校を加えたPTA関係者が一堂に集い、スマートフォンを小・中

### 共催団体感想

### 温故知新から未来を紡ぐ

た物の見方、考え方を構築していかなければなりません。子どもの安全、子どもの教育等あらゆる面において、スマートフォン等のかわり方を子育ての第一義的責任を有する我々がしっかりと考えていかなければならないと思います。最後になりましたが、全附連の皆様により感謝申し上げます。

### すべては子どもたちの素敵な笑顔のために

素晴らしいものへと創造できると確信いたします。各家庭教育において十二分に議論を重ね保護者が責任をもって管理しなければならぬと感じています。「すべては子どもたちの素敵な笑顔のために」。

### 自ら考える力の育成

子どもたちの夢ある未来のために、心豊かな素敵な笑顔あふれる地域を創造するために、今後ともPTA活動にご理解、ご協力いただきますようどうぞよろしく申し上げます。

### 国公立PTA合同公開シンポジウムへの期待

まずは大人である私たちが正しく理解して、子どもたちに寄り添う視点で必要な声をあげていくことが大事であり、このような機会が増えていくことを期待しています。

### スマホ持ち込みは一律に語れない

え方、児童・生徒の実態などがあるため、全国一律に語れるものではない。理想は新年度ごとに関係者が集い、各学校でその方針を決めることだ。それが困難なら、公立では自治体ごとに判断するのはどうだろうか。家庭、学校の事情に歩み寄り、子どもに最善の着地点を見つけたい。





本講演Ⅰは「元号に関する懇談会」のメンバーとしてご活躍された宮崎緑先生に講演いただきました。宮崎先生も附属のご出身で、「ふぞく」は私の原風景ですとの話から講演が始まりました。新元号「令和」は我が国248番目の元号で初めて国書を典拠にし、日本文化の美意識を凝縮したものです。万葉集で詠まれた花は梅。古今和歌集で紀友則が「久方の：花の散るらむ」と詠んだ頃から花といえば桜になりました。文化とは智の文化的遺伝子は「ミーム」といわれ、「アイデンティティ」の源となります。今、世界各国では「アイデンティティ・クライシス」が叫ばれています。

## 本講演 1



### 宮崎 緑氏

千葉商科大学教授 / 国際教養学部長

## グローバル人材を育てる

例えば、多民族国家アメリカは2050年頃には白人が国民の50%を切り、既に英語を話す白人の国ではなくなろうとしています。メキシコ国境に壁を作ろうとする所以のひとつですね。テロや紛争の背景にもこうした状況があります。しかし、アイデンティティの違いを認めることは国と国、個と個の結びつきのうえでとても大切です。これから求められるグローバルな人材とは、自他のアイデンティティを理解し、コミュニケーションスキルを活かし情報を集め、問題を発見し、解決する能力をもつ人材です。その根幹は初等教育にあり、自分を、日本を知り、相手を、世界を知るといったリテラシーを身につけることが大切なのです。そのために、まずは個々が持っている才能をみつけ、伸ばすこと、「靴に足を合わせる」のではなく、合う靴をみつける「ことをこれからの教育に期待し、自身も実践していきたい、と抱負をお話いただきました。

## 共生のための成果～今、附属学校に求められるエビデンス

「教育経済学」新たな教育研究の手法  
「教育経済学」という視点から日本や世界各国の教育について分析をされている講師からのお話でした。中室先生は教育を「投資」と考えたときにそれが将来どのようなアウトカムに繋がるかを研究しています。今のところアメリカの研究が中心ですが、特に幼児教育への投資が将来的な個人の収入の増加・納税額の増加・犯罪率の低下などに繋がるという結果が多いということとで、そうした教育に対して国や自治体が税金を使うことに一定の合理性を与えていると考えて良いでしょう。また、そうした結果は、テストの点数が良いとか高等教育への進学率が良い、ということよりも、「決められたことを確実にこなす」「与えられた課題をやり遂げる」「リーダーシップを発揮して課題を解決する」といった能力（「非認知能力」と呼んでいました）の向上によってもたらされる、という考えが主流になってきているとのことでした。附属学校の教育が目指すものも、そういうところにあるのかもしれないと考えさせられました。

シンポジウム  
（シンポジスト）  
中室牧子氏 慶應義塾大学総合政策学部 教授

## 本講演 2



### 中室 牧子氏

慶應義塾大学総合政策学部教授

柳澤好治氏 文部科学省 総合教育政策局 教育人材政策課長  
大山泰氏 株式会社オウケイウェイブ社長室長  
ケイウェイブ総研所長  
元フジテレビ報道局解説委員  
吉田隆氏 全国国立大学附属学校連盟 副理事長  
神余智夫 全国国立大学附属学校園PTA連合会 会長  
（コーディネーター）  
呉本啓郎 全国国立大学附属学校園PTA連合会 直前会長  
附属学校園から発する教育のエビデンス  
シンポジウムでは、中室先生から教育経済学などで用いられる研究方法・エビデンスの構築についてお話があり、元々研究校である附属学校園ではこうした手法を取り入れて研究を進めていき、その存在価値を高めていける可能性についてご指摘がありました。それに対し、柳澤様・吉田先生からはこういう研究は現場ではまだ端緒にすぎたところで、これからの課題として取り組んでいく、ということでした。また成人までのフォローを要する研究が多く、そうした長期にわたる研究をどうするかも課題だというお話でした。

一方で大山様からはこうした研究を進めるうえで、「教育の成果」というものをどこに置くのか、そういう問題提起がありました。確かに学歴や金銭的な指標だけで個人の教育の成果を測るというのは難しいところがあります。そのあたりも今後の課題でしょう。

しかしながら、こうした新しい教育研究を積極的に取り入れられる可能性があるのも附属学校園のメリットであり、新しい価値の創造に積極的に取り組めたらと思います。

### 幼稚園ランチミーティング

今最も問題を抱えている幼稚園。幼保無償化や幼保連携など改革のうねりが押し寄せる中、「附属の魅力とは何なのか」、「延長保育など他の幼稚園と課題は同じなのか」、「保育の質を落とさないため附属の役割は他にあるのではないか」、など多様な意見が出され議論は多岐に渡りました。今後少子化がさらに進む中、「国の施策として外国人受入れの議論を進めてい



### 特別支援ランチミーティング

このプログラムは、初日の特別支援分科会が講演会形式のため、参加者相互の情報交換の場を確保するために設けられました。服部直毅特別支援副委員長の司会で前日の分科会講演者の黒岩氏、高橋氏も加わってテーブルを囲み、冒頭、元理事の戸栗倫子氏より筑波大学附属大塚特別支援学校での卒業の余暇活動支援の話題提供があり、その後は自由な懇談に。自力通学や



### あいさポーター研修

「障がいを知り、ともに生きる」をテーマに本会顧問の竹川裕之氏が講師を務め、多様な障がい種別を紹介する動画の視聴や、支援学校に通う子を持つお母さんとの交流から学んだ事柄など、硬軟織り交ぜた内容で実施致しました。

誰かが生き易い社会を作るために必要な「日常生活におけるちょっとした配慮」を行うきっかけをお持ち帰りいただけたのではと思います。特定の校種に偏らず多くのご参加をいただけたことで、全附P連内の意識の高まりを実感する講習となりました。



### 教育後援会セミナー

オプションプログラムで教育後援会役員のセミナーが開催され、各学校の教育後援会役員にご参加いただきました。全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会で発行している冊子を使い、小出理事長が講師を務め、教育後援会の位置づけやあり方、運営上の注意点などについて詳細に説明がなされました。附属学校園の財政上の問題は大きく、学校の運営にまで影響を





# PRブース 紹介



第10回大会のPRブースコーナーには、前回は大幅に上回る17のブースで賑わいました。各関係省庁、そして多くの産学連携企業様、教育関係企業様からは、大会参加者の活動に役立つ興味深い展示をいただき、各PRブースでは沢山の参加者の方々が足を止めていました。

## 出展省庁及び展示内容

- 文部科学省初等教育局 児童生徒課（いじめ対策について）
- 内閣府 知的財産戦略推進事務局（知的財産教育等について）
- 内閣府 子供の貧困対策担当（子供の未来応援国民運動について）
- 財務省 大臣官房地方課（財政教育プログラムについて）
- 厚生労働省 社会保障担当（社会保障教育について）
- 金融庁 総合政策局総合政策課（金融経済教育について）
- 総務省 近畿総合通信局（ネットリテラシー向上の取組について）

## 出展企業及び展示内容

- 公益社団法人日本PTA全国協議会（教育関係書籍の販売）
- 一般社団法人全国図書教材協議会（小中学校で使用されている図書

教材など）

- 日本教育新聞社（購読案内、媒体紹介など）
- 「カンガルー保険」各保険会社（東京海上日動火災保険株式会社・損保ジャパン日本興亜株式会社・海上商事株式会社・株式会社第一成和事務所）
- 株式会社S. P. Create（小中学校向け通知表作成ファイルなど）
- Classi株式会社（高校、中高一貫向けサービス機能の紹介など）
- プラス株式会社（学校関連文具など）
- 株式会社瑞光メディカル（傷処置材料など）
- 株式会社ベネッセコーポレーション（GTECなどの紹介）
- 株式会社USEN（スマホアプリ製作などの案内）



## 作文・絵作文展示



絵画コンクール受賞作品展示とともに「第1回 作文・絵作文コンクール」入賞作品が展示されました。「先生へのメッセージ」、「先生との思い出」をテーマとした作品それぞれは、全国の附属学校園に通う子どもたちの先生方への信頼、尊敬、そして感謝を表現した内容で、展示を見られた多くの参加者の感動を誘っていました。

## 特別支援製作品展示・販売



絵画コンクール受賞作品展示と同室に設けられた作品展示ブースでは、全国の附属特別支援学校・学級の子供たちが心を込めて製作した品々が多く展示され、多くの皆さまが足を止めご覧になっていました。また販売コーナーでは、筑波大学附属大塚特別支援学校の生徒たちも販売サポートに駆けつけ、コーナーは大いに盛り上がっていました。

## 情報交換会

大会1日目の最後には、国立大学附属学校全国同窓会塩谷会長、日本教育大学協会日向事務局長、公益社団法人日本PTA全国協議会北川副会長、また、各セミナーで講演いただいた講師の先生方、さらに文部科学省をはじめとする関係省庁や全附連、関係各所から約80人のご来賓を迎え、およそ800名が参加しての情報交換会が開かれました。

文部科学省総合教育政策局長浅田和伸様の乾杯を皮切りとして、闊達な情報交換、意見交換が行われ、限られた時間ではありましたが、非常に有意義な時間となりました。

今、学校の教育現場では、社会環境的要因や家庭環境的要因により様々な問題が新たに発生しています。また、家族構成・家庭環境並びに個人の価値観の多様化が進み、色々な社会問題も起きています。学校における「いじめ問題」「子どもの貧困問題」などは、学校だけで解決できる問題ではなくなってきています。また情報伝達手段の急激な伸展により新たな問題も起こってきています。加えて、有識者会議の報告書に基づく附属学校改革や、学校における教員の働き方改革も推進していかなければならない課題です。

こうした現状を踏まえ、“子どもたちとこの国の未来のために～今、附属が目指す「共生」～”をスローガンに掲げ、全附連PTA研修会第10回全国大会を開催いたしました。

当連合会の目的は、単位PTAの健全な発展を促進し、あわせてわが国における社会教育、家庭教育の充実と附属学校の相互の交流をはかり、もってわが国教育全般の発展に寄与することです。

そのため、当連合会は、その目的を達成するために、法人格を取得し、より公共性・公益性を高めていきます。そして、今現在子どもたちを取り巻く現代的教育課題に対して、確かなエビデンスに基づいて積極的に活動を展開していくことをここに宣言いたします。

令和元年10月5日  
全国国立大学附属学校PTA連合会  
全附P連PTA研修会 第10回全国大会

平岡実行委員長による大会宣言

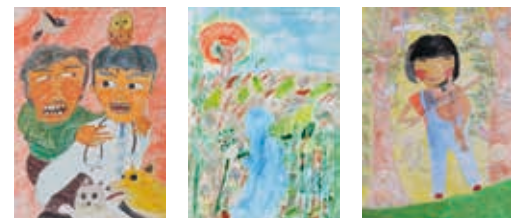
谷田部副実行委員長による閉会宣言



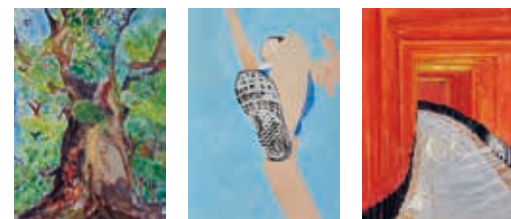
## つゆくさ賞



宮城教育幼 年長  
愛媛幼 年長  
愛媛幼 年中



宇都宮小 2年  
福岡教育福岡小 1年  
大阪教育平野小 3年



鹿児島小 5年  
茨城中 1年  
京都教育京都小(中高等部) 2年



京都教育桃山小 5年  
京都教育桃山小 6年  
福岡教育福岡小 5年



茨城幼 年長  
茨城幼 年中



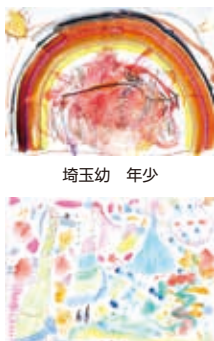
愛知教育幼 年長  
大阪教育幼 年長



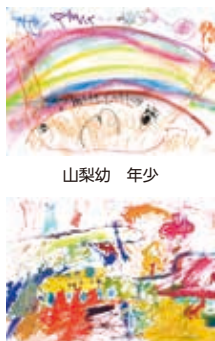
愛媛幼 年長  
長崎幼 年長



群馬幼 年長  
熊本幼 年少



埼玉幼 年少  
山梨幼 年少



金沢幼 年中  
宇都宮小 1年



静岡静岡小 2年  
鳴門教育小 2年



京都教育桃山小 1年  
京都教育桃山小 1年



京都教育桃山小 2年  
大阪教育平野小 1年



神戸小 1年  
広島東雲小 2年



新潟新潟小 3年  
愛知教育名古屋小 3年



京都教育桃山小 3年  
お茶の水小 5年



山形小 6年  
お茶の水小 5年



鹿児島小 3年  
鹿児島小 4年



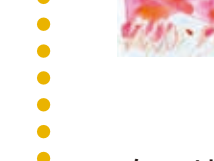
長崎特支 中学部2年  
鳴門教育中 1年



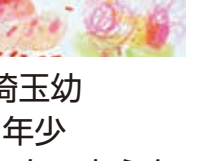
群馬特支 高等部1年  
長崎特支 中学部2年



鹿児島小 3年  
鹿児島小 4年



鹿児島小 3年  
鹿児島小 4年



鹿児島小 3年  
鹿児島小 4年



鹿児島小 3年  
鹿児島小 4年



鹿児島小 3年  
鹿児島小 4年

# 全 附 P 連 絵画コンクール 2019 「はじまりのとき」 ～ぼくのわたしの 未来への希望～ 入賞作品

※学校名については略称とさせていただきます。

## カンガルー賞



北海道教育函館幼 年中  
宮城教育幼 年中



埼玉幼 年中  
宮城教育幼 年中



埼玉幼 年中  
宮城教育幼 年中



宮城教育幼 年長  
宮城教育幼 年長



富山幼 年長  
金沢幼 年少



愛媛幼 年中  
お茶の水小 1年



上越教育小 1年  
金沢小 2年



広島三原幼 年長  
お茶の水小 1年



お茶の水小 1年  
上越教育小 1年



金沢小 2年  
お茶の水小 1年



金沢小 2年  
お茶の水小 1年



金沢小 2年  
お茶の水小 1年



京都教育桃山小 2年  
大阪教育池田小 2年



広島三原小 1年  
金沢小 3年



金沢小 3年  
金沢小 3年



金沢小 3年  
金沢小 3年



京都教育桃山小 2年  
大阪教育池田小 2年



広島三原小 1年  
金沢小 3年



金沢小 3年  
金沢小 3年



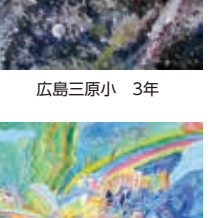
金沢小 3年  
金沢小 3年



熊本小 4年  
熊本小 4年



鹿児島小 3年  
京都教育桃山小 5年



京都教育桃山小 5年  
京都教育桃山小 5年



京都教育桃山小 5年  
京都教育桃山小 5年



宇都宮小 6年  
大阪教育平野小 6年



福岡教育福岡小 6年  
福岡教育福岡小 6年



福岡教育福岡小 6年  
福岡教育福岡小 6年



福岡教育福岡小 6年  
福岡教育福岡小 6年



宮城教育小 6年  
宇都宮小 6年



岡山小 1年  
東京学芸特支 小学部6年



長崎特支 中学部1年  
長崎特支 中学部1年



長崎特支 中学部1年  
長崎特支 中学部1年

## 日比野克彦賞



宮城教育幼 年長  
金沢幼 年中



金沢幼 年中  
金沢幼 年中



神戸幼 年長  
金沢幼 年中



金沢幼 年中  
金沢幼 年中



鳴門教育幼 年長(川組)  
長崎幼 年長



長崎幼 年長  
茨城小 1年



茨城小 1年  
京都教育桃山小 5年



京都教育桃山小 5年  
京都教育桃山小 5年



愛知教育名古屋小 1年  
福岡教育小倉小 1年



福岡教育小倉小 1年  
福岡教育小倉小 1年



静岡浜松小 4年  
静岡浜松小 4年



静岡浜松小 4年  
静岡浜松小 4年



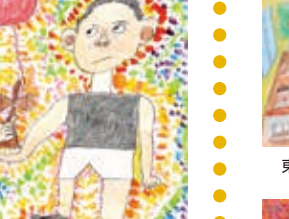
静岡浜松小 4年  
大阪教育平野小 3年



大阪教育平野小 3年  
神戸小 4年



神戸小 4年  
熊本小 6年



熊本小 6年  
宮城教育小 6年



香川高松小 4年  
兵庫教育小 5年



兵庫教育小 5年  
熊本小 6年



熊本小 6年  
宮城教育小 6年



宮城教育小 6年  
宇都宮小 6年



信州長野中 3年  
東京学芸特支 中学部2年



東京学芸特支 中学部2年  
東京学芸特支 中学部2年



東京学芸特支 中学部2年  
東京学芸特支 中学部2年



東京学芸特支 中学部2年  
東京学芸特支 中学部2年



鹿児島小 5年  
北海道教育旭川中 3年



岡山小 1年  
東京学芸特支 小学部6年



長崎特支 中学部1年  
長崎特支 中学部1年



長崎特支 中学部1年  
長崎特支 中学部1年

## 特別審査員 日比野 光希子氏

今回の審査会では、日比野克彦氏に代わり、ご令妹の日比野光希子氏に審査いただきました。



### プロフィール

多摩美術大学デザイン科グラフィックデザイン専攻卒業  
東京藝術大学大学院美術研究科修了(福田繁男研究室/構成デザイン)  
日本グラフィック展 特選 オブジェ TOKYO展 佳作  
「TDS推薦新人展」(六本木AXIS 東京デザイナーズスペース)

個 展 【六本木HEART LAND / 神宮前Art gallery】  
渡美 (1989)  
銀座 プラスマイナスギャラリー・横浜 相鉄ギャラリー  
銀座 KOMATSU AMUSER・日本橋 高島屋インテリアギャラリー  
代官山ヒルサイドテラス アートフロントギャラリー・青山 ギャラリーハイベル  
岐阜 画廊光芳堂・市之倉ささき美術館ギャラリー由

展覧会参加 「グラフィックパワー展」川崎市市民ミュージアム  
「グラフィックスカルプチャー展」渋谷バルコギャラリー  
「もうひとつのやわらかな出口展」渋谷バルコギャラリー  
「VIVA20C展」松屋銀座 / 「光の茶会」原宿クエストホール  
「未来数寄展」田園調布ギャラリーたち花  
「TheNewWay of Tea」N.Y.ジャパンサイエンス  
「ピクニックハウス住宅展示場」渋谷バルコミュージアム  
絵画制作を主に、家具デザイン、空間構成デザイン、やきもの制作、装幀など  
舞台美術(1992-2000)「竹中直人の会」(作・演出 岩松了)  
映画題字(東京日和)【連弾】【サヨナラCOLOR】(監督:竹中直人)  
2019ミラノ・フィオリサローネにて絵の制作、展示

【作品集】 「ナンバープレートに並んだ数字を見るたび、自分の番号を探している」(リトル・モア)  
「きょうのきもち」(ことば:辻仁成・絵:日比野光希子/偕成社)

出品されたみんなの絵が、ずらりと並べられている光景は圧巻で、一枚ずつ見ていく目にも力が入る。今年のテーマは「はじまりのとき」ぼくのわたしの未来への希望。はるかなる先を想い描いている作品と面と向かった時には、思わず黙って見つめてしまった。時間は止まらな。刻一刻と進んでゆく。去年より今年、きのうより今日、さっきより今。今！うっかり過ぎていてはもったいない。大人の時間より子どもの時間の方が長く感じられるのは、きのうまでできなかったことが、今日できるようになった！なんていう感動が毎

## 絵を描く気持ち

日の中に沢山ちりばめられて、新しい発見や喜びを胸に抱くこともあれば、時に、つかみきれない苦いような想いが、体をめぐることもあるだろう。そんな、言葉にもできない、いろいろな想いを、何とか色や形や線にして、よように。ときに作品が生まれてくる。悩める心や、みつけた喜びこそが、作品の持つ魅力そのものである。一緒に感じてようとした時、子どもたちの絵は、この上なく柔らかく優しい未来に満ちている。

## 特別賞



長崎幼 年中  
ぼくの町のじゃおどり



宇都宮小 2年  
キレイな水をいつまでも



京都教育桃山小 3年  
恐竜博士になりたい。



琉球小 6年  
うちなーが世界へはばたくとき



愛媛中 3年  
新しい時代



筑波大塚特支 幼稚園年少  
うれしいことたのしいこと  
いっぱいやりたいな

## 学校園優秀賞

- ・長崎大学教育学部附属幼稚園
- ・福岡教育大学附属福岡小学校
- ・岡山大学教育学部附属中学校
- ・東京学芸大学附属特別支援学校



全  
P

附  
連

絵画コンクール  
2019

9月22日、「はじまりのとき」～ばくのわたしの未来への希望～をテーマとして、絵画コンクール2019が開催されました。本年の主管校である京都教育大学附属桃山小学校にて行われた審査会においては、全国88校園から応募があった2,230作品の中から、4人の審査員によって、入賞作品120点が選出されました。



### 主管校紹介

本校では、「すべての教育活動を子どもの側から発想する」という考えのもとに、教科の学習はもとより、教科外の学習活動や全校活動・行事活動においても、子どもたちの自主性・自

### 京都教育大学附属桃山小学校

この地は、もともとは伏見城の城下町として栄えました。伏見城と言えば、豊臣秀吉が亡くなり、徳川家康が征夷大將軍の宣下を受けた場所です。そして軍師官兵衛が亡くなったのもこの地です。幕末に活躍した坂本竜馬が襲撃された寺田屋、戊辰戦争の緒戦である鳥羽伏見の戦いの火ぶたが切って落とされたのもこの地です。そして桓武天皇陵、北朝三代の天皇陵、明治天皇陵、皇后陵もこの地にあります。このような歴史の香りが漂うこの地に京都教育大学附属桃山小学校があります。本校は明治41年4月京都府女子師範学校が京都市吉田町の仮校舎に設けられ、同時に京都市第一高等学校の一部分と京都市第二錦林尋常小学校の全部とをもって代用附属小学校と定められスタートし、京都教育大学附属桃山小学校は111年を迎えました。

### 新時代を切り拓く子ども

発性・創造性が発動され、育っていくような特色ある教育活動に取り組んでいます。また、先進的な研究を発信し続けています。研究としては、①新教科「メディア・コミュニケーション科」（文科省教育課程特例校指定）、メディアを選択し活用して、自分の思いや考えを伝え合うことができる力を育てるための教育課程・指導目標、内容、方法の更なる充実研究。②外国語教育の充実（小・中・高連携研究プロジェクト）、小学校での英語科の教科化に向けて、中・高との連携研究。③「我が国の伝統・文化教育の充実に係る調査研究」（文科省研究指定）、伝統音楽や郷土の音楽を大切にして地域と連携した教材開発も行っています。（祇園囃子・六斎芸能・お箏等）④桃山地区三校園連携研究（附属幼稚園・附属桃山小学校・附属桃山中学校）、学びの主体性を育む連携教育研究。以上の研究で子どもの学びの充実をめざし、この地、京都より発信しています。

### 令和の主役は君たちだ！

ご応募いただいた作品は、これから始まるドキドキした気持ちやワクワクする気持ちが伝わる作品、躍動感に溢れた作品、心温まる作品、またそれぞれの地域を感じさせる作品など様々でしたが、どれも未来への希望や願いがストーリーとして伝わってくる素晴らしい作品ばかりでした。希望や願いは誰かに叶えてもらうものではありませんが、附属の子どもたちなら、きつと自らの力で未来への扉を開いてくれることでしょう。

この度は多くの皆様にご協力をいただき、無事終えることができ感謝申し上げます。来年も盛大に開催されますことを心より願っております。

### 主管校所感



第15回絵画コンクール主管校  
京都教育大学附属桃山小学校  
育友会 会長  
小林 哲也氏

今年も全国の附属学校園から2000校を超える作品のご応募をいただきありがとうございます。新しい時代「令和」が始まる年ということで、テーマを「はじまりのとき」に、また、地域賞は、花の色や姿が優美で気高いことから本校を象徴する花として校章のデザインや校歌の歌詞にも用いられている「つゆくさ賞」に決定しました。



### 審査員講評



文部科学省  
文化庁参事官  
坪田 知広氏

絵を描いた子どもたちが絵画に自信をもち生涯にわたって美術に親しんでもらえたら、そして画家やデザイナーなどの芸術家を目指そうと思ってもらえたら、こんなに嬉しいことはない

### 発見！美の巨人たち

今回の審査では、他の審査員の方々と少し異なる視点での評価となるよう心がけました。芸術の振興と芸術教育の充実を担う文化庁として審査に加わる以上、それぞれの作品の持ち味、いわば創造性、独自性を丁寧に見出そうと考えたからです。それにより、

多くあり、非常に迷いましたが、後日、全国大会で展示されている入賞作品を見た時、やはり自分の判断は間違っていなかったと思いました。このような全附属の取り組みが我が国の芸術教育の充実を牽引していくことを願っています。当日までの準備や審査のお手伝いをしてくださった皆さん、全国の子どもの素晴らしい作品との出会いをありがとうございました。



京都教育大学  
副学長  
岩村 伸一氏

と楽しんでいる。それを感じたとたん、気持ちが楽になりました。図画工作の内容である造形遊びの根拠となっている「子どもの遊び」では、子ども自身がその内容を更新していき、大人の

### こんなところでも遊んでいる

実は、審査するのは苦手だなと考えつつ会場に着きました。が、体育館の床に広がった大量の絵を前にして、わたしの怖れは一瞬间で飛んでしまいました。作者である子どもたちひとりひとりが、線を引いたり色を広げたりといった絵の作業を、ワクワク

思いが伝わってきて、作品の中にある自分を精一杯表現しているのを感じました。作品はその人そのものです。この絵画コンクールを通して、家庭や地域、学校などが繋がり合うことができるのは素敵なことだと思えます。子どもたちが思いのままに自分を表現し、未来に夢や希望をもちながら成長していく過程を、私たちが大切にしたいかなければならないなあという気持ちになりました。



京都市教育委員会 事務局 指導部  
学校指導課 指導主事  
兼 京都市総合教育センター指導室  
副主任指導主事  
久米 昌代氏

### 子どもの思いを大切に

総合支援学校、幼稚園、そして小学校から高等学校までの様々な発達段階の子どもたちの作品をたくさん見せていただき、とても楽しい一日でした。「どんなお子さんが描いたのかな?」「どんな気持ちで描いたのかな?」と描いているときの表情や姿を思い浮かべ

せ、自分なりのイメージをもって生き生きと表現していました。子どもらしく微笑ましい線や形の感じ、心温まる明るい色の感じが、心より引き締まった緊張感のある雰囲気などから、作者



# 寄稿

## 働き方改革

本年4月から働き方改革がスタートしました。一昨年3月に働き方改革実行計画が策定され、昨年6月に働き方改革一括法が成立し、本年4月から順次施行されているのです。

働き方改革は、働く人の視点に立って、労働制度の抜本的改革を行い、日本の企業文化、日本人のライフスタイル、日本の働くということに対する考え方を変えることを目指すものです。

具体的には、長時間労働の是正のほか、同一労働同一賃金など非正規雇用労働者の処遇改善、テレワークなど柔軟な働き方ができる環境整備、転職が不利にならない柔軟な労働市場の形成等の幅広い改革が含まれています。ここでは、長時間労働の是正に絞って解説したいと思います。

## 労働基準法改正

日本の総実労働時間は1706時間ですが、これはパートタイム労働者を含めた全労働者の平均であり、一般労働者の総実労働時間は2000時間を超えています。欧州諸国と比べると相当長い実態にあります。長時間労働は、過労死など働く人の健康にかかわる重大な問題であるとともに、ワークライフバランスを確保できない、女性の活躍を阻害する、男性の育児参加を困難にするなどの様々な問題の要因でもあるので、その是正は喫緊の課題です。



東京海上日動火災保険顧問  
(元厚生労働省厚生労働審議官)  
岡崎 淳一氏

労働基準法では、法定労働時間は1日8時間、1週40時間と定めており、これを超えて働かせる場合には、労使協定(36協定)が必要です。これまで、時間外労働について、法的な上限はなく、36協定に委ねていました。

今般の労働基準法改正によって、時間外労働の法的上限として、1か月45時間、1年360時間が定められ、36協定を締結する場合には、基本的にこの範囲内で上限を決めなければならないこととなります。

また、臨時の必要がある特別な場合には、いわゆる特別条項を定めることによって、1年のうち6月までは、月45時間を超えることができ、その場合には、1年720時間以下で、かつ、単月は休日労働を含めて100時間未満、複数月平均では休日労働を含めて80時間以下としなければならぬこととされています。

## 学校における働き方改革

なりました。

また、臨時の必要がある特別な場合には、いわゆる特別条項を定めることによって、1年のうち6月までは、月45時間を超えることができ、その場合には、1年720時間以下で、かつ、単月は休日労働を含めて100時間未満、複数月平均では休日労働を含めて80時間以下としなければならぬこととされています。

## 教員の労働時間

長時間労働の状況は、産業や職業によってかなり相違がありますが、職業別に週60時間以上働いている人の割合をみると、教師は、医師、自動車運転者とともに30%を超えており、長時間労働が多い職業の一つです。このため、教

員の長時間労働の是正が必要で、重点対象の一つとされており、厚生労働省と文部科学省が協力して、対策をすすめているところです。

ところで、附属学校の教員と公立学校の教員では適用される労働時間制度が異なります。附属学校の教員は国立大学が国立大学法人となった際に公務員でなくなったため、ほかの産業や私立学校の教員と同じように労働基準法が適用されます。一方公立学校は、地方公務員法や公立学校給付法の規定によって、36協定、時間外労働の法的上限、割増賃金などの規定の適用がありません。

このため、公立学校においては、文部科学省の策定したガイドラインに基づいて教員の労働時間を短縮に取り組んでいる

るのに対して、附属学校では、労働基準法という刑罰規定のある法律を遵守するため、教員の労働時間を必ず見直さなければならぬということになります。このような法制の違いもあることから、附属学校では、公立学校に先駆けて取り組み、モデルとなることが求められていると思います。

労働時間の短縮には、学校長を始めとする教員の意識改革、適切な労働時間管理システムの導入、無駄な業務の廃止や業務の効率化などとともに、生徒や保護者の理解と協力も不可欠です。PTAの皆さんのご理解とご協力をぜひお願いいたします。

## 附属OB訪問 プラス

国立大学附属学校卒業生から  
ご寄稿いただきました。



香川県坂出市長  
綾 宏氏

## 親子四代附属学園の卒業



附属坂出小学校50年前

全附P連神余会長さんから、附属だよりの執筆の依頼を受けました。内容は親子三代の方々はおいでるが、親子四代になると中々珍しいというので、書いて欲しいとの事でした。神余さん親子もよく存じ上げていますのでお断りも出来ずにいました。すっかり忘れていた訳ではないのですが、丁寧な催促をいただいた焦っております。

まずは資料集めに、記念誌やアルバムを探しておりましたら余計なものに目がいき中々捗らず、時間ばかり過ぎてしまい、そうこうしてする間に執筆が3つに、某大学の講義が迫ってきました。沿革史から父親や私、息子の入学年度を確認しておりましたら、机上は資料の山に。妻から常々父親が亡くなった時に遺品の整理で大変だったのだから「貴方も66歳なんだから子どもたちのためにも、終活をしない」と言われており、また資料等が増えていると冷たい眼差しが痛く、資料

等を事務所に移して、また広げる事に。邪魔が入らないと余計に違う事に目がいき、一向に原稿は進まない。とにかく何を書けばいいのか纏まらない。

父親は早く亡くなったのですが、昭和4年生まれで昭和11年に小学校に入学して、附属国民学校を経て卒業し旧制の丸亀中学に進学したそうです。父親の7人の兄弟も全て附属の卒業生です。近所に親戚が多くあったのですが、ほとんどの人達が卒業生だったと思います。当時、香川師範学校附属小学校(大正2年創立)で、同じく附属幼稚園(昭和8年併設)もありましたが、後に兄弟の叔父貴の半数くらいが幼稚園から入園してたようです。私もその住居は商売を営んでいたのですが、当時の繁華街の真ん中にあり、附属小学校よりは少し近くに公立の小学校があったのですが、私も至極当然の様に附属幼稚園から登園、登学しておりました。幼

稚園に入園する前まで遊んでいた近所の子たちが何処へ行ったのか、ちょっと不思議だった事を覚えています。通学路も就業時間も違っていたのか、放課後もほとんど遊ばなくなり、少し範囲が広がったが附属の同級生も先輩も数多くいたので、彼らと放課後や休日に遊ぶ様になりました。それぞれの居宅を行き来し、おやつを出してくる家の母親は大人気でよく遊んでいました。私の家は叔父貴も含めて大家族でしたので、子どもの個別のお誕生会などは勿論無かったのですが、何故か各家でのお友達を招いてのお誕生会とか、秋祭のお呼ばれとかが流行ったのか、よく行っていました。子どもにもお呼ばればかりでなく、お返しで私も友だちを呼んでお誕生会したいと、母親にせがんだ覚えがあります。年の差がありません。叔父貴(6歳違い)や2人の妹たちもいたので、後で考えると当時母親は大変だったのではないかと思います。

当時は、家長の祖父(陸軍将校)が居ましたので、日常生活は年功序列、男尊女卑?の封建的なものでした。天皇家ではありませんが、今思うと直系男子の父親や私はかなり優遇されていたのかなと思っております。私が入学した時は香川大学学芸学部坂出附属小学校と言っておりましてが中学に入学する時には教育学部附属坂出中学校と改称されていまして。当時は香川県は教育県と言われていたそうなので、私からしたら休日までに登校して学力テストを受け、なんてこんなにも勉強しないといけないのかな不思議でした。

私には5人の子どもが居ますが、これも当然の様に4人は附属の卒業生です。ある時期から入試時にくじ引き制度ができた、くじ運悪いのが1人いました。一昨年から敷地内同居の孫が2人附属幼稚園に登園しています。これで四代の出来上がりです。



附属坂出中学校



# 1冊の伝記本が すべてののはじまりだった

**神余** 吉村作治先生といえば、だれもがエジプト考古学の第一人者と答えられると思いますが、そのエジプト考古学者を目指されたきっかけは何だったんですか。

**吉村** きっかけは10歳、小学校4年生のときでしたね。当時の小学校にはやんちゃな子どもたちが多かったこともあって、よく図書室に、逃げ込んでいた、やんちゃな子たちは図書室には来ないからね（笑）そして司書の先生に「何の本を読んだらいいですか」と訊ねたら、「世界の伝記の本を読みなさい」と言われ、手に取ったのが「ハワード・カーター」の伝記。これがエジプトを目指した原点だね。

**神余** 「ハワード・カーター」といえば。

**吉村** 「ハワード・カーター」は有名なツタンカーメン王の王墓を発見したイギリスのエジプト考古学者。その伝記によると、王墓を発見したのは1922年、20世紀に入ってもまだこんな大発見ができることに驚

いたね。そして是非エジプトへ行ってみたいと思った！

**神余** そんなすぐにですか！（笑）

**吉村** そう、それからすぐに担任の先生に「エジプトへ行きたい！どうすればいいですか」と相談したら「お前は偉い。将来の夢を持つことは非常にいいことだ！」とまずは褒めていただいたが、次に言われたのが「エジプトへ行きたいのなら東京大学へ行かなければだめだ。しかし今の成績では厳しい。だから私も協力するから頑張って東大を目指なさい」と言われたんですね。

## 第12回 附属OB訪問

東京学芸大附属中高の卒業生で、日本を代表するエジプト考古学研究者である吉村作治さんを訪問させていただきました。世界の古代エジプトの歴史研究に数多くの大きなご功績を残され、テレビや書籍、その他多くのメディアで、エジプト考古学の魅力を発信されてこられた吉村作治さん。幼少期に研究者を目指されたきっかけや、国立大学附属学校全国同窓会顧問として、附属学校のこれからの地域貢献などについてお話を伺ってきました。



吉村 作治氏 対 談 神余会長

## 附属で「生きた教育」を学んだ

**神余** 東京学芸大学附属大泉中学校（当時）はどんな学校でしたか。

**吉村** とにかく「自由だった」との印象が一番強いね。中学の校門はあったが周囲を囲む塀はなかった。当時の校長先生は「教育現場には自由を確保すること」という方針があったそう。だから先生との距離もとても近く感じていた。一時期、僕は家に帰らず古い校舎で友達5人ぐらいいつも寝泊まりしていたんだけど、宿直の先生方がするマージャンもよく見てたよ（笑）

**神余** その自由な校風の中で、ご自身の中学時代のお話を聞かせてください。

**吉村** 大泉中学校に入学できた途端、これでエジプトに大きく近づいたと思

い、中学の3年間は勉強よりも運動に力を入れましたね。その結果、入部し

たサッカー部では東京都大会で優勝もしたよ！

**神余** それはすごいですね！将来はサッカー選手になんて思いませんか。

**吉村** それはなかったね。サッカーも頑張ったけれど、一方では僕が委員長でエジプト古代史について社会科研究クラブを作ったりもした。けど誰も部員はいなかったけどね（笑）やはり目標を決めたら、できることに一生懸命にやることで



すよ。努力と継続。そうすれば運もついてくる。様々なチャンスにも巡り合うことにもつながると思えますよ。

**神余** それから東京学芸大学附属高等学校へ進学されましたよね。

**吉村** 当時の高校に、この度の改元された元号「令和」の考案者と騒がれた中西進先生がいらっしやたのも魅力的でした。中西先生は万葉集研究の第一人者で、自分もやはり古い歴史を持つ万葉集にも興味があったからね。今でも尊敬する先生の人です。

さい。

**吉村** 高校時代を一言でいうと「生きた教育」を受けさせていただいたということですね。当時は60年安保闘争で政治が混乱していた。そんな時に先生が僕たちを国会まで連れて行って言ったんだよ。「よく見とけ、今がこの国の将来が決まるときなんだ。これからの君たちの人生のために、その潮目をよく見て、判断するんだぞ」って。また国会前のデモも見に行きましたね（笑）とにかく様々な場面で「生きた教育」を学びましたね。これこそ学芸、附属学校のいいところだと思いますよ。

## 今こそ「地域共存」を

**神余** 今、全国の附属学校園に役割の一つとして「地域貢献」がありま

すが、そのことについて東日本国際大学専任教授・学長としてのお立場から、何かヒントをいただけますか。

**吉村** 「貢献」という言葉はどちらか一方からのアプローチであって、他の一方へ何かをしてあげるということ。今の附属学校に求められる本

当の地域貢献とは、地域「共存」と思います。東日本国際大学では、大学開放活動の一環として市民の皆さんに学部の開設科目を開放しています。私の講義も例外なく。特に本学の教員には民間企業出身の方が多くいますので、大学内では経験できない、それぞれのこれまでの経験や知識、最新の研究成果を地域の皆さんにも聞いていただく、また反対に地域の皆さんからのお話や意見を聞く、そうやってお互いの知識・見識を高め合っていくことが地域にとつ

て本堂に必要なことではないかと思

いますね。

**神余** 最後に附属学校に通う子どもたち、保護者、そして先生方へメッ

セージをお願い

**吉村** 子どもたちには「やりた

いことをやる！最後まであきらめずに！」という

こと。そして保護者の方々、先生方へは「子

どもがやりたいことをやらせる！」こと。子ども

たちのやる気や思いを後押ししてあげることが大事だと思います。僕の「エ

ジプトへ絶対行く」という本気の決心が固まったのは、いきなり「エジ

プトへ行きたい！」という10歳の子どもの気持ちを両親に伝えたときの言葉：「それでいいの？」。そして先生方が具体的にその方法を教えてくれたことです。失敗を恐れず、続けること、また周囲が後押しをしてあげること。そうすると必ず子どもたちは結果を得ることができると思います。みなさんの活躍を祈っています！



考古学者 早稲田大学名誉教授

## 吉村 作治氏

### プロフィール

東日本国際大学学長、早稲田大学名誉教授・工学博士。  
1943年、東京生まれ。  
1958年3月 東京学芸大学附属大泉中学校卒業  
1961年3月 東京学芸大学附属高等学校卒業  
1966年、アジア初のエジプト調査隊を組織し、発掘調査を始めてから約半世紀にわたり調査・研究を続けている。電磁波探査レーダー、人工衛星の画像解析といった最先端の科学技術を駆使した調査により、数々の成果を挙げた。74年のルクソール西岸魚の丘彩色階段の発見により一躍注目され、その後も200体のミイラ、太陽の船、未盗掘墓の発見等、エジプト考古学史上に数多くの足跡を残している。また現在は「日本の祭り」を原点にした地域振興・創世の試み、eラーニングを活用した教育の普及にも努めている。



## 附属トピックス

### 熊本大学教育学部附属特別支援学校

熊本大学教育学部附属特別支援学校では、子どもたちの自立と社会参加を願い、学校と家庭が一体となって実践に取り組んでいます。その起点となるのが「支援者ミーティング」です。「支援者ミーティング」は小学部1・4年、中学部1年、高等部1年で行う個別の教育支援計画作成に係るミーティングです。このミーティングのメンバーである家庭、学校、関係機関で、本人の「夢・希望」の実現に向けて目標を立て、支援の役割分担を行います。

平成30年度に本校PTAでは、この「支援者ミーティング」に基づいて家庭で行った実践について、すべての家庭がレポートを作成し、それらを編集のうえ実践集として刊行しました。その全61事例の中から3事例について、令和元年度5月に開催されました第68回九附連実践活動協議会大会特別支援部会で報告を行いました。報告の概要は以下のとおりです。

【報告1】「一日日記から自分を振り返る力」(小学部保護者) 親子で毎日一日日記に取り組むことで、文章表現が豊かになり、一日の出来事を振り返る力がついた事例

【報告2】「一人で行けるモン！バスや電車を乗り継いでプチ一人旅」(中学部保護者) 本人の興味関心を大切にしながら、

### 茨城大学教育学部附属特別支援学校



8月31日土曜日に夏祭りが開催されました。本校の夏祭りでは、地域や関係機関との連携はもちろん、大学附属の特別支援学校であることを生かし、大学と連携した特色ある取り組みを行っています。それが、茨城大学教育学部障害児教育教室と連携した「大学生による子どもたちのための遊び場づくり」です。この取り組みは本校が開校40周年を迎えた3年前から始まりました。夏祭りの運営にあたってはPTA運営委員会が中心に企画・立案をし、関係各所との連絡調整を行います。一方、学校側では大学との連絡調整を行うとともに、教員が学生の授業に参加し、本校に通う子どもた

### PTA実践集～夢・希望への歩み～



九附連実践活動協議会での発表の様子



完成したPTA実践集を手にする本校PTA会長・副会長

公共交通機関の利用に必要なスキルやマナーを身に付けた事例

【報告3】「ごはん・おかずを作ってみよう」(高等部保護者) IHコンロや電子レンジの使い方をマスターし、一人で簡単な調理ができるようになった事例

各家庭における実践をまとめることは、子どもたちの成長の足跡をたどることにつながりました。一步一步の歩幅は子どもにより、また発達段階により長短ありますが、確実に歩みを進めてきました。それは学校や関係機関の支えもあり力強いものでした。そして子どもたちの確かな歩みこそが、私たち保護者の「夢・希望」であることをあらためて実感しました。

子どもたちはこれからも歩み続けていきます。私たち熊本大学教育学部附属特別支援学校の保護者は学校や関係機関とともに「ワンチーム」でその歩みを支えていきます。

### 「遊び場」でつながる未来

ちの様子を伝え、遊び場づくりの助言を行います。このような役割分担をすることで、多岐にわたる調整を円滑に行えるようにしています。また、こうした中で新たな発想が生まれたり、関係者間の結びつきが深まったりすることも多く意義深い行事です。

特に「遊び場」は、学生たちが一生懸命に試行錯誤し、作り上げたもので、本校の子どもたちだけでなく、広く地域の子どもの体験できるように運営しています。

「遊び場」活動を通して、様々な人が楽しんで交流し、その結果、地域への理解啓発の絶好の機会となっています。何より、本校の子どもたちにとっては、多くの人との結びつきを実感し、社会性を支える基盤づくりとなるとても有意義な機会となります。

また、本校卒業生の進路先の事業所等に物品の販売等を依頼し、参加を募り、卒業生や福祉の方々との関係を深められるようにしています。

このように「夏祭り」は、「楽しい」活動を中心に様々な人が交わる機会となっており、「みんな一緒に楽しかった」「協力して頑張った」等確かな実感のこもった相互理解の場となっています。

## インタビュー

大阪教育大学附属平野中学校 副校長 野中拓夫  
全国国立大学附属学校PTA連合会 会長 神余智夫

神余…本日はよろしくお願ひいたします。

附属平野中では教育実習生と保護者の懇談会が成果を上げているそうですが、どのような内容なのでしょう。

野中…実習生に対しては保護者と語る会、保護者には実習生と語る会と称している会で、実習生3〜4人に対して保護者2〜3人のグループを作り、60分間語り合います。目的としては家庭と学校が連携することの大切さを認識してもらうことや、世代を超えたコミュニケーションを行うことです。キーワードは「こんな先生になりたい」「こんな先生になつてほしい」で、目指すべき教師像などを語ります。平成22年にPTA主催で始まりました。

神余…この会で実習生にはどのような反応がありましたか。

野中…どのグループでも会の終わりに、保護者も教員も同じように子どもを大事に考えていることに気づきます。

神余…双方が共感を覚える貴重な体験ですね。保護者はどのような感じでしょうか。

野中…保護者もいろいろと考えていて、あえて最初は教育実習生を困らせるような話題から入り、最後は実習生が自信を持って前向きに教師を目指すようにフォローアップしていく方もいます。事前に役割分担などもされているのかもしれませんが、保護者も実習生もお互い教員に言えないようなことも話しているようです。

神余…この会はどのような効果がありますか。

野中…まず、実習生には、保護者は敵ではないという感覚が伝わり、教員を目指す意欲を強めてくれています。また、保護者も実習生のことに理解が深まり、子育てのヒントも見つけることができます。緊張感から始まりますが、とても盛り上がり、楽しいひと時になっています。

神余…この会の成果を発信していくようなことはお考えですか。

野中…この会の2年後には教員として赴任していきまので、効果などを追跡調査しエビデンスとしてまとめて発信していきたいですね。附属幼稚園などにも開催が広がっています。

神余…この会について今後の抱負や夢などはありませんか。

野中…大阪教育大学の教育実習充実の方策の一つとして発展させていき、スタンダードなプログラムとして提案できる可能性もあるのではと思っています。

神余…最後に何か思うことがあればお聞かせください。

野中…PTAの皆さんの心配りにはいつも感謝しています。とてもありがたいと思っています。

神余…本日はどうもありがとうございました。

## 大阪教育大学附属平野中学校

大阪教育大学附属平野中学校  
PTA会長 岡元譲史

実際に保護者と触れ、その思いを聴くことを通じて、実習生には改めて「生徒は、保護者が大切に育ててきた愛の結晶である」ということを深く理解していただけたと思います。

互いに熱く語り合った会の最後には、実習生から「目立たず、人知れず頑張る子にもしっかりと目を向けて」「先生は一人一人のこ

### 「生徒は愛の結晶」を体感する機会



とを見てくれている」と感じてもらえるような教師になりたい」といった感想が自然と出てきます。

大阪教育大学 教育学部  
教員養成課程 中等教育専攻  
国語教育コース 3回生  
今井博登

今井博登

昨日、「モンスタースターアプレント」という言葉や、教員と保護者の間に起こる問題をニュースなどで見聞きする機会が少なくありません。そのせいか、実習生の多くは、教員になってからの保護者との「すれ違い」に、いささか不安を抱いています。しかし、この「語る会」を通じて、立場や方法が異なるだけで、保護者の方々も教員

### 「語る会」に学ぶ



国立大学法人 大阪教育大学  
理事・副学長 森田英嗣

附属平野地区では、実習生に保護者と語り合う場が与えられます。担当する子ども一人ひとりに、その成長を願う保護者がおられることを意識することは、実習生に、教職への準備をさらに動機づける機

### 「教育実習生と保護者の懇談会」

の可能性に注目しています

会となります。保護者の方々にとっては、大学生となった時の我が子の姿を思い描く機会ともなるそうです。このように教える人がいなくても(学び)は生じ得ます。本事例からは、附属平野地区の先生方のもつ、実習生育成哲学を垣間見ることが出来ます。保護者の子育て応援活動ともなり得ており、その多様な可能性について、大学でも注目しています。



国立大学附属学校振興議員連盟  
設立趣意書

明治5年の学制発布以来、我が国は、教育振興の重要政策として教師の育成に力を注ぎ、全国各地に師範学校と附属学校を設立してきた。戦後、師範学校の大学化や共学化などに伴い、附属学校も再編・統合され、現在では、国立56大学に幼稚園49園（51校舎）、小学校69校、中学校70校、義務教育学校3校、高等学校15校（17校舎）、趙純教育学校4校、特別支援学校45校の計255校園が設置され、約9万人の子供たちが在籍している。

附属学校は、教育実習生の指導に加え、大学の教育研究への協力、新しい教育課程や指導方法に関する研究開発などを行い、公開研究会等を通じて、その成果を全国又は地域に還元し、先進的な実践校・モデル校としての役割を果たしてきた。これは諸外国に類を見ない日本独特の優れたシステムであり、我が国の教師の指導力の向上と学校教育の発展に大きく貢献してきたと考える。さらに、近年では、各府省庁とも連携し、財政教育、エネルギー育、貧困対策など、国家的な課題の解決につながる取組を展開している。

しかしながら、我が国を取り巻く社会情勢や国立大学の経営環境が大きく変化したことなどにより、このような附属学校の重要性が学内でも必ずしも十分に認識されないまま、経費節減の観点から、附属学校への人的・物的資源の配置が滞ったり、その存続が議論されたりする事態が生じている。

一方、Society5.0時代の到来やグローバル化の一層の進展に向け、学校教育における先端技術の活用、外国人児童生徒をさらに受け入れるノウハウの開発など、附属学校の先進的・モデル的な役割の重要性はますます高まるとともに、求められるニーズも拡大・多様化している。

我々はこのように認識を立て、我が国の政策課題の解決に真摯に応えようとする附属学校に対しては、これまで以上にその役割を確実に果たせるよう、その運営基盤を強化・充実を図ること等を通じ附属学校の振興を目指し、本議員連盟を設立するものである。

令和元年10月吉日

発起人

船田 元

石破 茂

森 英介

山口那津男

塩谷 立

平井卓也

寺田 稔

齋藤 健

大野敬太郎

国立大学附属学校振興議員連盟発起人

船田 元、石破 茂、森 英介  
山口 那津男、塩谷 立、平井 卓也  
寺田 稔、齋藤 健、大野 敬太郎（敬称略）

の間、地域の公教育の発展に寄与してきており、今後もその目的のために附属学校をさらに活用すべきだと思っている。一昨年の有識者会議を受け、現在各附属学校では、様々な改革を進めているが、附属学校は大学から学校運営のより一層の効率化を迫られ、老朽化している学校設備の整備などをなかなか進められない学校も多いのが現実。是非、我々全附P連は、今回発足した議員連盟の理解と支援を受けながら、それらの様々な問題を解決し附属学校を地域の教育の発展によりつなげていきたい」と同議員連盟との今後の取り組みへの期待を述べた。

文部科学省からは、総合教育政策局浅田和伸局長が有識者会議で挙げられた課題など附属学校を巡る最近の情勢についての説明を行い、「附属学校は先進的、特色的な取り組みを積極的に進めていく成果を公教育に広げていく、言わばトップランナー的な機能を有している」と附属の公教育における重要なファンクションに期待を示したうえで、その役割を世の中に幅広くPRしていく必要があることも言及した。

そして、質疑に入り主に全国民が裨益しなければならぬ附属学校の目的とは何か、また公教育への貢献についての数値的なエビデンスを示していく必要性、すなわち全附P連が各附属学校と取り組んでいる、いじめ、貧困への対策、あいサポート運動など障害者への支援活動、また財務省と共同で行っている財政教育プログラムなど、附属発信で公教育に還元していく先進的な活動についても具体的な実績を外部に示していく必要はないか、など、出席議員、文科省担当官との間で積極的な議論が交わされた。

今回の議員連盟の設立により、日本の政治の中心である霞が関で附属学校についての具体的な議論が始まったことに大きな意義を感じました。加速する「待ったなし」の附属の未来についての議論の輪は更に広がっていきます。

（広報委員会 三谷聖一）

同議員連盟の発起人の一人であり、また今年設立した「国立大学附属学校全国同窓会」の会長でもある塩谷立衆議院議員（静岡大学教育学部附属静岡中学卒）は冒頭あいさつで「今年3月の同窓会設立総会で、附属の存続が危ぶまれていること、またその問題解決のために全附P連、教育後援会が中心となり熱心に活動していることを初めて知り文科大臣経験者の私が何かお手伝いできないか」と思い同窓会の会長を引き受けた。同窓会の席で、大勢の附属出身議員の方々というお話をし、今後は議員連盟を作り具体的な現状の問題点をみんなで把握したうえで附属の未来について議論していこうと

全附P連の神余会長は、「附属学校はこの国のためになくてはならない存在だと考えている。事実、学校によっては百数十年も



院第一議員会館地下一階第一会議室にて開催されました。出席者には、同議員連盟の設立趣意書（案）、及び規約（案）が配布され、司会は、大野敬太郎議員（衆議院議員・香川大学教育学部附属坂出中学卒）が担当し議事の進行を行いました。

同議員連盟の発起人の一人であり、また今年設立した「国立大学附属学校全国同窓会」の会長でもある塩谷立衆議院議員（静岡大学教育学部附属静岡中学卒）は冒頭あいさつで「今年3月の同窓会設立総会で、附属の存続が危ぶまれていること、またその問題解決のために全附P連、教育後援会が中心となり熱心に活動していることを初めて知り文科大臣経験者の私が何かお手伝いできないか」と思い同窓会の会長を引き受けた。同窓会の席で、大勢の附属出身議員の方々というお話をし、今後は議員連盟を作り具体的な現状の問題点をみんなで把握したうえで附属の未来について議論していこうと

このたびの台風15号・19号および21号により被害を受けられた全国の附属学校園教職員、お子様、保護者、およびすべての関係者の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

全附P連役員一同、被災された皆様、一日も早く平常の生活に戻る事ができますよう心よりお祈り申し上げます。



このたびの台風15号・19号および21号により被害を受けられた全国の附属学校園教職員、お子様、保護者、およびすべての関係者の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

全附P連役員一同、被災された皆様、一日も早く平常の生活に戻る事ができますよう心よりお祈り申し上げます。



台風15号・19号および21号により被災されました皆様へ

このたびの台風15号・19号および21号により被害を受けられた全国の附属学校園教職員、お子様、保護者、およびすべての関係者の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

全附P連役員一同、被災された皆様、一日も早く平常の生活に戻る事ができますよう心よりお祈り申し上げます。

《令和元年度 作文・絵作文コンクール》開催のお知らせ

本年度も全附P連では「作文・絵作文コンクール」を開催致します。

詳細は12月初旬に各学校園へご案内させていただきますし応募要項をご参照ください。

なお、応募要項等は、全附P連ホームページにも掲載しています。

今年も多く作品の募集をお待ちしています。

全附P連PTA研修会第11回全国大会 ご案内

日程 令和2年10月2日(金)～3日(土)

場所 ハイアットリージェンシー東京

是非多くの保護者の皆様、先生方、そして教育後援会の皆様のご参加をお待ちしております。

全附P連「新しい教育研究の資金調達のためのクラウドファンディング」事業

この度、多くの応募の中から愛媛大学附属高等学校のプロジェクト「持続可能な未来へ。愛媛大学附属高校、循環型農業への挑戦」企画についてクラウドファンディングが実現いたしました。

多くの皆様からのご支援をどうぞよろしく願い申し上げます。

詳しくは左記リンク先をご覧ください。

<https://readyfor.jp/projects/chimedai-fuzokukoukou>

発行所

全国国立大学附属学校連盟  
全国国立大学附属学校PTA連合会  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門  
1-2-29 虎ノ門産業ビル8F  
全附連事務局  
TEL:03-3591-2091  
FAX:03-3591-2092  
E-mail:jimukyoku@zenfuren.org  
印刷:株式会社インテックス

編集委員

委員 長 原田 信一  
委員 長 山田 義博  
委員 長 関田 哲弘  
委員 長 千葉 一雄  
委員 長 石川 武  
委員 長 高木 勝利  
委員 長 平賀 博之  
委員 長 樽本 尊和  
委員 長 矢野 晴一

全附P連

担当副会長 北島 一人  
委員 長 大竹 昌士  
副委員長 中村 裕治  
副委員長 高橋 望  
副委員長 三谷 聖一  
副委員長 筑波 高

編集後記

令和二年度に向けて全附P連は法人化へと歩みを進めました。国立大学附属学校として、さらなる公益性、公共性を求められている昨今、日本の教育のため全国の教育に携わる方々と連携し、さらなるこの国の教育の発展のために一層の努力が求められています。目に成果が見えていないですが、それを目に見えないように、またすべての教育現場や活動に役立てることを求めているのだと思います。

今年度「不審者の改革と周知」を胸に私自身、全国の取り組みや事例を見聞きし、それを広報として皆様にお届けすることを使命としてきました。伝えられることは本当に少しかけて、自分を感じていることが、どれくらい伝わっているのかわかりません。全国の附属学校園の先進的の素晴らしい取り組みがたくさんあり紹介できるのはほんの一部分です。附属学校園だけではなく、日本全国のすべての教育現場や教育関係企業等と連携を図れたら、子どもたちの教育環境がより一層充実するであろうことは言うまでもありません。法人化することにより、より一層関係団体や関係機関との連携を密にし、ネットワーキングを築いていければ、こんなに素晴らしい環境の充実と安心安全の確保が最大の命題であり、この国の未来を背負うとして子どもたちのサポートをする、これが使命だと思っています。これから教育の充実を目指して活動していくためには、私自身「附属だより」を編集するたびに緊張感と使命感を思い出し、私自身を引き締め、さらなる努力を目標にしていかなければならないと感じています。（中村 裕治）

全国国立大学附属学校園の幼児・児童・生徒の保護者の皆様へ

この保険は全国国立大学附属学校PTA連合会の団体保険です。

ただ今募集中!

2019年度 中途加入受付中

カンガルー保険のご案内

詳細につきましては、パンフレットをご覧ください。

団体総合生活保険

任意加入制度

24時間補償

約50%割引

24時間補償

簡単・便利!

全員加入制度

1 園児・児童・生徒、教職員の皆様へのケガなどを補償する

2 園児・児童・生徒、教職員の皆様を犯罪事故からお守りする

3 PTA活動に参加中の両親・教職員の皆様のケガや賠償事故を補償する

引受保険会社

東京海上日動火災保険株式会社

北海道・東北・関東・北信越・四国地区

株式会社 第一成和事務所

東京都中央区日本橋久松町11-6

日本橋TSビル 8F

0120-100-492

《東海・近畿・中国・九州地区》

海上商事 株式会社

東京都渋谷区代々木2-11-15

新宿東京海上日動ビルディング

0120-745-748